

● 皮膚障害（手足症候群および皮疹・皮膚乾燥・ざ瘡様皮疹）

ここでは代表的な皮膚障害として手足症候群と皮疹、ざ瘡様皮疹ならびに皮膚乾燥を取り上げます。

[手足症候群]

手足症候群というのは文字通り、手掌と足裏に限定して起こる症状であり、発赤、血管拡張、腫れ、などの症状が現れ、ひどい場合には角質層のはく離、水疱、ヒリヒリ感や焼きつくような痛みを伴います。

対策としては、軽度の症状が出た時点から尿素系の保湿剤（セラチナミンなど）塗布とビタミン B6 製剤の内服を開始します。症状がひどくなれば抗がん剤を一旦中止し、外用ステロイド剤を追加します。たいていの場合はこの処置によって症状は軽減もしくは消失します。その後は抗がん剤を通常用量もしくは減量して再開されます。

[皮疹・皮膚乾燥・ざ瘡様皮疹]

上皮成長因子（EGFR）の働きを抑える薬（セツキシマブ、エルロチニブなど）は肺がんや大腸がんの治療においてよく使われますが、副作用として皮疹、ざ瘡様皮疹（にきびのような発疹や吹き出もの）、皮膚乾燥、皮膚の亀裂、爪周囲の炎症などの皮膚障害を引き起こしやすく、かゆみや痛みを伴うこともあります。顔面に紅斑やざ瘡様皮疹が起これば人と対面するのがいやになり、精神的に落ち込んでしまうこともあります。EGFR 阻害薬による皮膚障害を予防もしくは軽減する場合の基本3原則



は保清（石鹼をよく泡立て穏やかに洗浄）、保湿、外的刺激（紫外線、化学繊維）からの保護です。保湿剤は手足症候群の予防の場合と同様です。さらに、1%ヒドロコルチゾンクリーム塗布、外出時には日焼け止め剤を使用し、化学繊維系の服は避けます。これらの処置を抗がん剤投与を開始する時から行います。海外では、これに加えてミノサイクリンの内服が行われます（国内では保険適応外）。重症の皮膚障害が出れば、抗がん剤投与は一旦中断され、軽度化もしくは消失すれば通常量もしくは減量して再開されます。皮膚障害は症状があらわれた場合でも、軽いうちであれば、保湿剤を用いたスキンケアの継続や適切な処置を行うことで治療を継続することが可能です。重症化を防ぐためには、発現した症状を見逃さず、早期に適切な治療を行うことが重要です。このような症状があらわれた場合、がまんしたり、ご自身の判断で服用を止めたりせず、早めに医療スタッフに連絡しましょう。これらの副作用が重症化すれば抗がん剤治療が中断され、軽症になるまで再開されません。さらに、再開する時には投与量の減量が考慮されます。

カペシタビンによる手足症候群あるいは EGFR 阻害薬による皮疹の症状と抗腫瘍効果に関係すること、すなわち副作用症状が重いほど、がんに対する効果が強いという報告もあり、こういった場合には副作用を軽減する対策が特に重要になります。

<主な症状と出現時期>

- 手足症候群：4～8 週
- ざ瘡様皮膚炎：1～4週
- 皮膚乾燥（皮膚の乾燥、ひび割れ、ひどいかゆみ）：4～5週
- 爪囲炎（爪のまわりの炎症）：6～8週
-

<皮膚障害を引き起こす抗がん剤>

手足症候群:フルオロウラシル系抗がん剤(カペシタビン、テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム、テガフル、テガフル・ウラシル)、ドキシソルビシンリポソーム製剤、エベロリムス、スニチニブ、ソラフェニブなど

皮疹、ざ瘡様皮疹:EGFR 阻害剤(ゲフィチニブ、エルロチニブ、セツキシマブ、パニツズマブ)

<症状に対して使われるお薬>

皮膚乾燥を予防するために保湿剤を使用します。保湿剤として、血行改善作用もあるヘパリン類似物質含有製剤(ヒルドイドなど)、尿素含有製剤(ウレパール、ケラチナミンなど)、ビタミン含有製剤(ザーネ、ユベラなど)、ワセリンがあります。

皮膚、爪の周囲に強い炎症が起きている場合には、ステロイド外用剤(クリーム、軟膏)が使用されます。ステロイド外用薬の種類は使用する部位によって異なります。また症状が改善したら使うのを一旦やめ、漫然と使わないようにしましょう。使用期間などについては医療スタッフに相談するようにしましょう。



<セルフケアのポイント>

保清(皮膚を清潔に保つ)、保湿(皮膚に潤いを与える)、保護(刺激をさけて皮膚を守る)

● 日頃から皮膚を清潔に保ちましょう

炎症や感染を起こさないようにするために、入浴・シャワーで清潔を保持しましょう。

皮膚に刺激の少ない石けん、ぬるま湯を使用し、皮膚に負担をかけないようにしましょう。

皮膚のバリア機能を補うために、入浴後は保湿剤を塗布し乾燥を防ぐようにしましょう。

● 外出時、日光にあたらないように気をつけましょう

直射日光を避けましょう。長袖の服を着る、広いつばのある帽子をかぶるなどを外からの刺激を最小限にし、皮膚症状の悪化を予防しましょう。

紫外線防御効果の高い日焼け止め(SPF 値、PA 値の大きいもの)を使用しましょう。汗をかいた場合は2時間おきぐらいで日焼け止めを使用するようにしましょう。



皮膚症状は正しいスキンケアを行い、清潔を保つことで、起こりにくくし、症状を軽くすることができます。適切なケアを続けて、皮膚症状を上手にコントロールすることが重要です。